

三浦市立名向小学校

研究テーマ：生き生きと学ぶ子～ズレを生む授業で目指す資質・能力の育成～

1、実践の目的

昨年度の児童の姿から、学ぶことに対して意欲的ではあるが、自ら見通しをもって取り組んだり、次につなげるための振り返りが不十分だったりと主体性を持つことに課題があると考え、本年度は子どもが主体性をもって取り組めるような授業づくりを目指すこととした。校内研究テーマである「生き生きと学ぶ子」の育成を目指す中で、「生き生きと学ぶ」とはどのような姿なのか、本校で育てたい資質・能力はどのようなものなのかを職員で考え、①見通しをもって主体的に学ぶ力②他者と協働する力③最後まで粘り強くやり遂げる力を目指す資質・能力と設定し、日々の授業に取り組むこととした。

2、実践の内容

(1) 校内研究について

研究推進委員会を中心に、校内全体で学びの場を設けた。授業研究会は、全員公開とし、多くの実践を積む中で、子どもの姿を中心に協議を進め、どのようなズレが資質・能力の育成につながるのかを検証した。

(2) 公開研修会や講師を招いての研修

公開研修会では、他校や他地区の先生方にも参加いただき、多くの意見をいただき授業を改めて見直していく機会とした。また、今年度は2名の講師の先生方に主に授業づくりについてお話をいただき、先生方と共有し、日々の実践に生かすことができた。

(3) 基礎・基本の定着に向けて

月曜日を「計算の日」、水曜日を「言葉の日」としてプリント学習を計画的に行った。計算の日においては、数種類のプリントを用意しておき、子どもたちがその日取り組む内容を自ら選んで取り組めるようにしたり、言葉の日では、子どもの実態に応じて視写や言葉の学習に取り組んだりしていた。また、それらの取り組みをファイルで保存し、自分が取り組んだ足跡を振り返り、自分の成長を自覚できるように進めた。

また、タブレットを利用して個別最適な学びの一つとして、Qubena を利用して個々の課題に継続的に取り組み、基礎・基本の定着を目指した。

3、実践の成果

(1) 校内研究について

教職員の数が少ない中で、学ぶ時間の共有を計画的に進めるのは難しい課題ではあったが、職員で「ズレ」を意識した授業づくりを進めたり、授業参観後は、子どもたちの学びの様子をもとに、授業を振り返ったりしながら校内研究を進めることができた。

「ズレ」を引き出すための「問い」を丁寧に考えることで、子どもたちの思考が広がり、新たな課題につながっていく中で、子どもたちの資質・能力の育成につながると感じた。

(2) 公開研修会や講師を招いての研修

計画的に研修を行ったことで、普段の授業づくりを振り返るきっかけとなった。ま

た、公開研修会では、市内小・中学校だけでなく、市外の先生にも参観していただき、貴重な意見を伺うことができた。多くの目で子どもの様子を見とり、より良い授業づくりのための意見を交流することができ、参考になる意見をいただくことができた。



(3) 基礎・基本の定着に向けて

高学年においては最初、クラス共通の計算プリントを配布し取り組む形だったが、取り組み方が定着してきてからは、子どもが自分で課題を選んで取り組むようにした。

また、課題の準備は研究推進委員が中心となっており、特に低学年・中学年は各担任と連携を図りながら、課題を準備していた。

継続的に取り組むことで、高学年では計算力の向上が見られ、また、低・中学年では四則計算の定着にもつながり始めている。



4、今後の展開

「ズレ」を活かした授業展開については、学年の発達段階や、教科・単元を見通し、しっかりと子どもたちの思考を教師自身が想定しながら授業を作る大切さを学んだ。その中で子どもたちが「問い」を持ち、他者と関わる中で思考のズレが引き出される。そのズレを教師が本時の課題・ねらうべき目標に繋げられるように、しっかりとした単元計画づくりの重要性を改めて感じた。また、子どもたちの学びの姿を学校全体で見直し、共通理解し、継続的に取り組んでいくことが重要であると考えます。また、海洋教育や地域教材を活かしながら教育活動を充実させていけるよう、カリキュラム・マネジメントも意識して取り組んでいけるよう、職員間での共通理解・情報共有を進めていきたい。

公開研修会については、職員の指導力・授業力向上の面からも、継続して取り組むことが大切だと感じる。本校はコロナ禍においても、感染対策を講じながら研修会を進めてきた。今後も子どもたちの学びのために様々な意見を聞ける場を設け、より良い授業づくりに取り組んでいきたい。また各研修に関しても、計画的・継続的にを行い、職員の研鑽の場を設け、普段の学習活動に生かしていけるよう実施していきたい。

朝学習においては、継続した取り組みの結果、子どもたちの基礎・基本の定着や、落ち着いて学習を始めるための時間としての役割が見えたので、来年度も継続して取り組んでいく。実施方法については学校全体で朝の時間に取り組む形を続けていくが、課題等に関しては、今一度、職員で情報共有しながら精査し、充実した取り組みにできるよう見直していきたい。